

神奈川県におけるニホンジカの分布の動向

栗林弘樹* 永田幸志*

はじめに

古林ら(1997)は、神奈川県におけるニホンジカの分布について、江戸時代などの文献から当時は県東部や南部の平野や台地にも広く分布しており、明治期以降の狩猟、密猟、生息地の改変等によって、1950年代には丹沢大山国定公園中心部に著しく分布を縮小、1960年代以降は再び分布の拡大傾向が見られるとしている。

県内のニホンジカ個体群を取り巻く諸問題につい

て、丹沢大山自然環境総合調査(丹沢大山自然環境総合調査団, 1997)を踏まえて、神奈川県(2000)は、1)丹沢大山地域におけるスズタケの大規模な退行、シカの嗜好性植物の減少やウラジロモミの樹皮喰いによる立ち枯れ、不嗜好性植物の増加に代表される生息地環境の劣化、2)丹沢大山鳥獣保護区内の持続的なニホンジカの高密度現象、個体数密度に対する相対的な食物量の減少による栄養不良や妊娠率の低下といったニホンジカ個体群の低質化、3)連年の農林業被害の発生という現状認識を示した。

こうした問題を軽減するために、神奈川県(2000)は、鳥獣保護及狩猟ニ関スル法律に基づく特定鳥獣保護管理計画を、第9次鳥獣保護事業計画(平成14年度から)の中で策定し、継続的なモニタリングを行い、計画内容を検証、修正を加えながら事業を実施するという手法で、保護管理を実施することとしている。

今回、保護管理計画策定の基礎調査の一環として関係者からの報告による分布調査を実施したので、平成12年4月から平成14年1月19日までの報告についてその結果をまとめた。

あ、シカだ! —シカ保護管理計画のための目撃情報調査—

シカを目撃したら、場所、性別、頭数を記録してください

目撃日: 平成 年 月 日(曜日)

お名前: _____

所 属: _____

目撃場所 林道・林道名、橋など目撃 場所を記入してください。	丹の頭数と体の大きさ					備 考
	雌 シカ	雄 シカ	角なし	角あり	角の長さ	
						分ければ角の 長さに記入 して下さい。
記入例 [厚木市七沢二の尾林 道トンネル手前]				1		へい死体

ご協力ありがとうございました。

この情報は、シカの適正な保護管理に活用します。

問合せ: 神奈川県自然環境保全センター 〒246-0121 厚木市七沢857

電話 (046) 248-5552 担当: 自然保護公園部野生生物課

FAX (046) 248-2560

図1 調査表

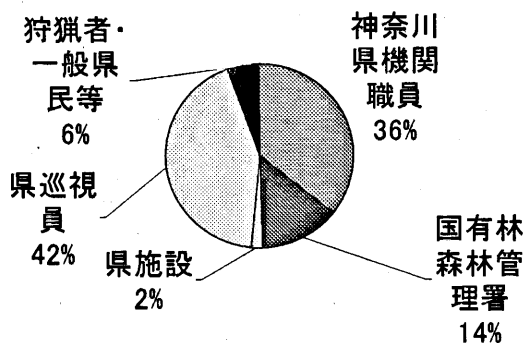


図2 報告者の内訳

調査方法

調査は、県中央部を南北に流れる相模川より西側地域で事業を実施している神奈川県関係機関・県立施設職員、県で森林保全や鳥獣保護等を目的として雇用・委嘱している鳥獣保護員、森林保全巡視指導員、自然環境保全指導員、自然公園指導員、県有林森林監守の皆さん(以下「県巡視員」という)に調査表(図1)を配布し、報告を依頼した。また、東京神奈川森林管理署の協力により国有林内を中心に、同様の調査表により目撃情報を収集した。

期間中、一般県民や狩猟者から電話等で被害やニホンジカの事故などの相談や情報があったが、これらは明らかに信頼度の低いものを除き、記録した。

調査表には、回答者の氏名、所属、目撃日と目撃場所、目撃個体について角の有無、角の枝分かれの数(枝分かれが無い角を「1尖」とし、二股を「2尖」、以下「3尖」、「4尖」と分類、調査票にはそれぞれの角を図示)、角の無い個体は、仔ジカとそれ以外に区分し、それぞれ目撃頭数を記録した。

結果と考察

1) 目撃数

今回取りまとめた目撃情報は、599件、のべ1464頭(内死体発見66頭)であった。情報提供者の内訳は図2のとおりである。このうち、「目撃がなかった」とい

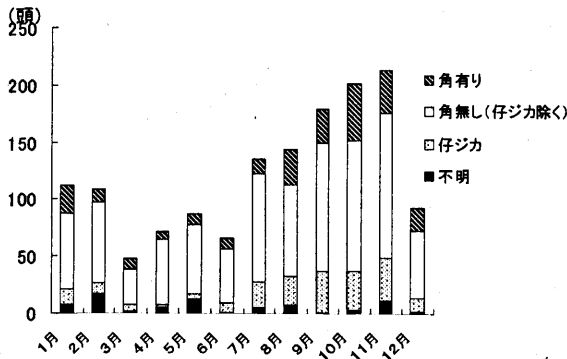


図3 月ごとの目撃頭数 (n=1464)

区分	期間	区分理由
出産・育児期	5/14～9/22	神奈川県(1997)による標準的な出産開始期から交尾期まで
交尾期	9/23～11/14	神奈川県(1997)による標準的な交尾期の開始時期と獵期の間
獵期・越冬期	11/15～5/13	調査期間中の狩猟期間から、出産・育児期まで

表1 ニホンジカの目撃時期の区分

う報告や、足跡や糞などの痕跡のみの報告を除いた580件について、目撃場所、目撃時期等を整理した。月ごとの目撃頭数は図3のとおりである。「仔ジカ」と分類された目撃のうち、その他の角無しシカと同時に目撃されていない個体は、角無しシカに分類した。角有りシカに比べて角無しシカの目撃数は、約3.6倍であった。

調査期間中の各月毎の目撃努力量が一定でないで、月ごとの目撃数の違いについての考察はさける。

角有りシカの内、角の枝分かれの数が識別できた個体について、1尖から4尖までの目撃の頭数比を見ると、相対的に1尖の個体の目撃数が少なかった(図4)。目撃による調査では、角の小さい1尖のオスジカの完全な識別が難しいことも一因ではないかと考える。

2) 分布

目撃場所は、報告された字名、地名などから保護場所を「統計に用いる標準地域メッシュ及び標準地域メッシュコード第3次地域区画メッシュ(以下3次メッシュという)」で整理した。3次メッシュは、日本全国を緯度経度で均等に分けたメッシュで、緯度差30秒、経度差45秒、約1km四方のメッシュである。整理にあたっては目撃者に随時聞き取りを行い目撃場所の補足を行った。なお、目撃場所が不明確で3次メッシュを特定できなかった報告は、3件(5頭)で、これらの記録は以後の結果からは除いた。

分布は、季節による違いを明らかにするため表1により、1年を3期に分けた。

この季節区分ごとに、報告のあった3次メッシュに目撃件数を表示した(図5、図6、図7)。分布は丹沢

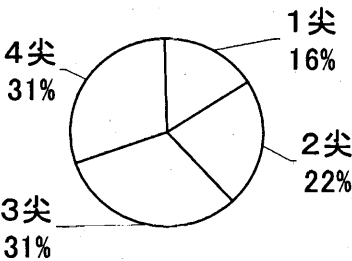


図4 角の枝分かれを識別できた情報の枝分かれの数の内訳(頭数比)(n=208)

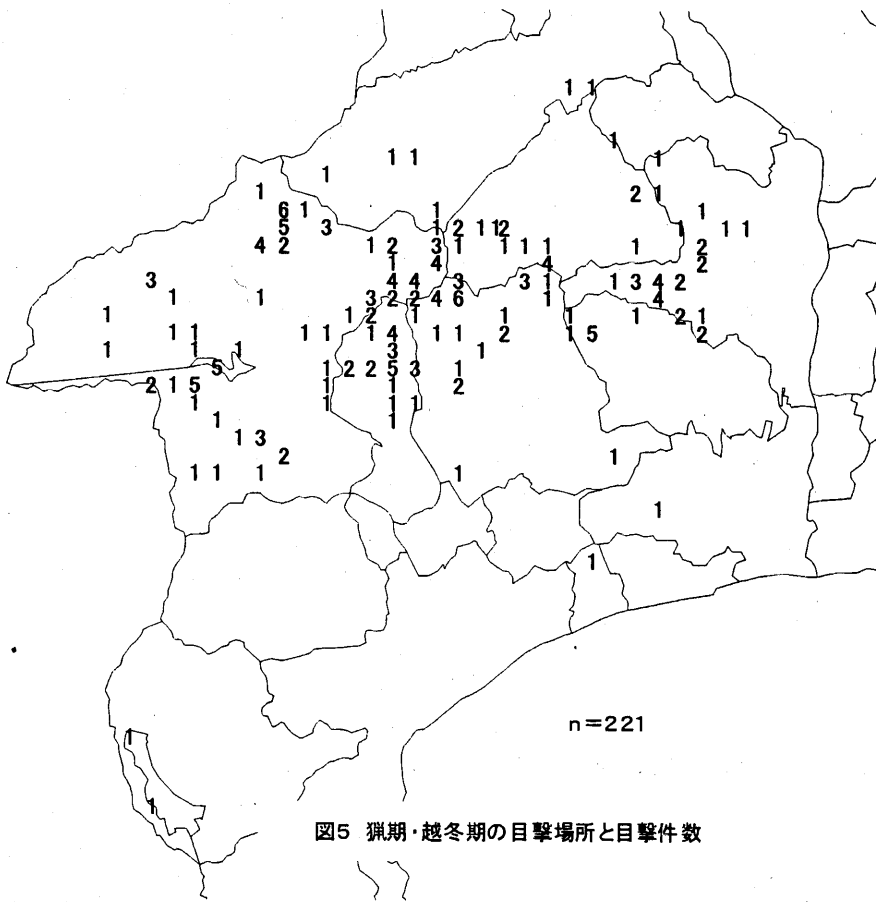


図5 猟期・越冬期の目撃場所と目撃件数

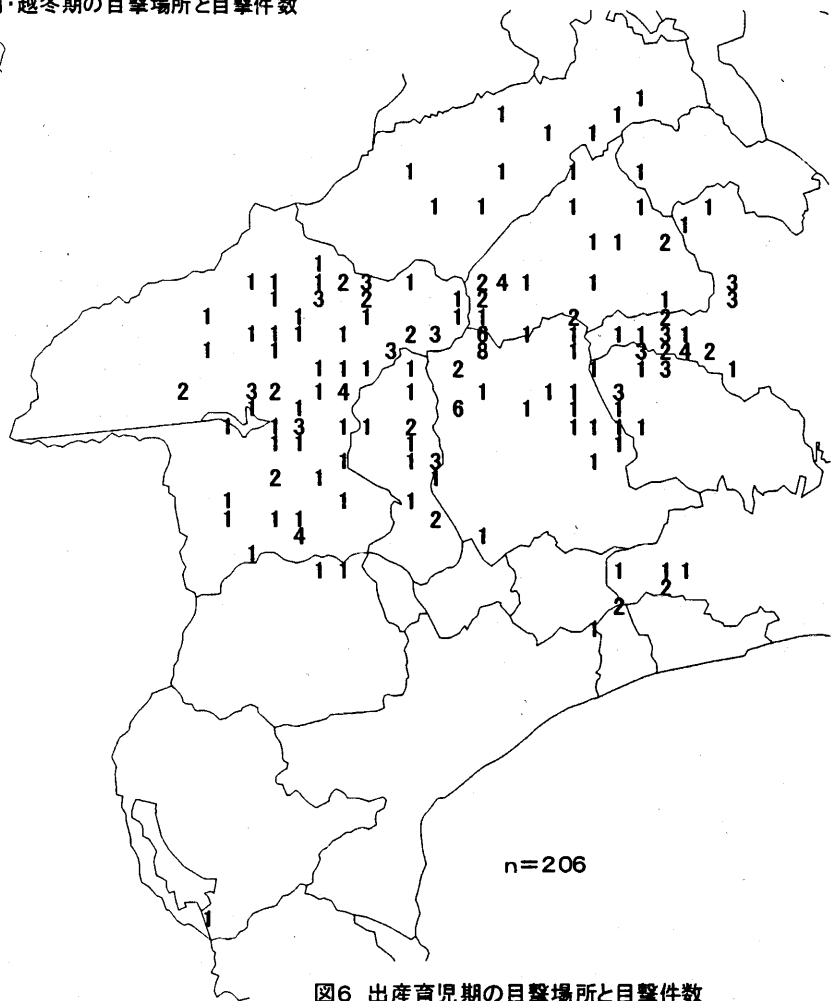
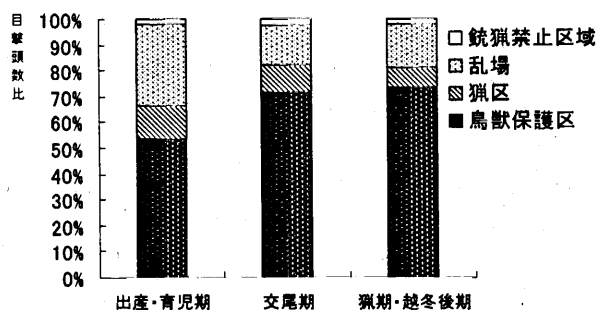
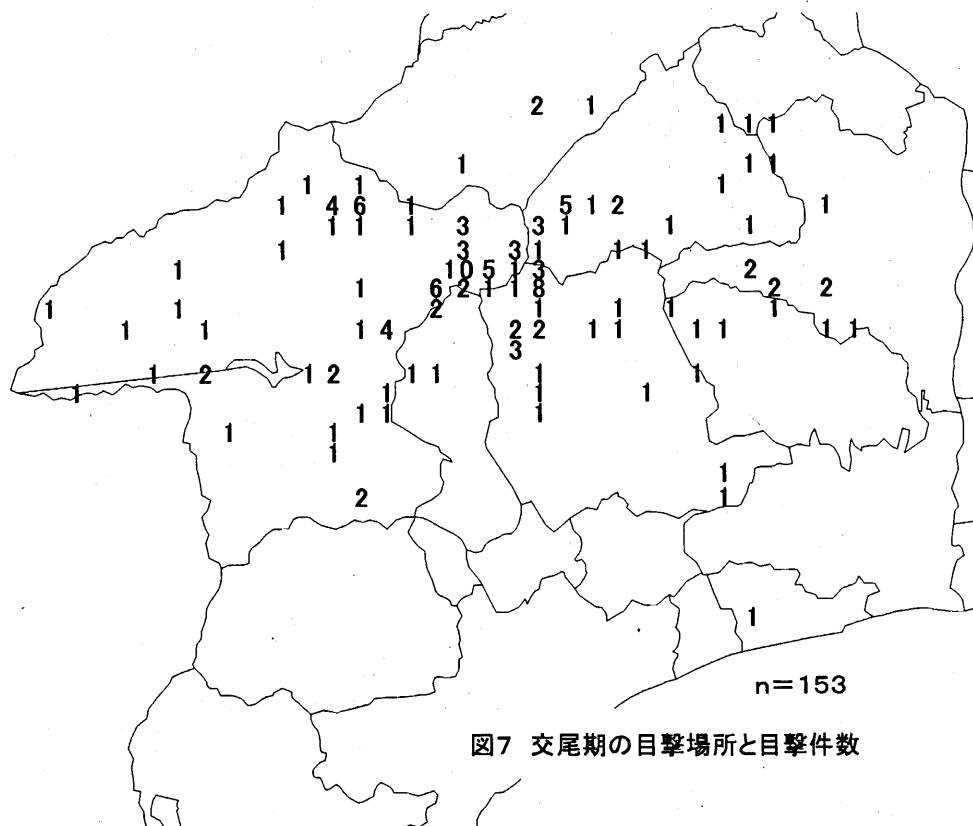


図6 出産育児期の目撃場所と目撃件数



山地を中心に行っているが、国道246号線の南側の地域で目撃があった。特に、山北町最南部(酒匂川以南)や中井町から平塚市、二宮町周辺の丘陵部では、複数の季節で目撃があり、南足柄市でもメスと判断できる目撃情報があった。

また、猟期から出産・育児期には、箱根町の芦ノ湖西岸でも目撃があった。現在のところ植生等への目立った影響は把握されていないが、今後の動向には注意する必要がある。

季節毎の目撃場所の違いについて、狩猟の影響という観点で分析を行った。

鳥獣保護区等位置図(神奈川県, 2001)から各3次メッシュごとの捕獲規制区分を読み取り、季節別に捕

獲規制区分毎の目撃頭数を百分率で比較した(図8)。各メッシュの捕獲規制区分は、メッシュ内で最も広い面積を占める区分を選び、鳥獣保護区、猟区、銃猟禁止区域、規制無し区域(以下乱場)のいずれかに分類した。

交尾期では全体の71%(頭数比)、猟期・越冬期では、74%(頭数比)がそれぞれ鳥獣保護区内での目撃であったのに対し、出産・育児期では54%にとどまり、交尾期や猟期・越冬期と比較して、鳥獣保護区での目撃が相対的に少ない傾向があった。この結果だけで判断はできないが、狩猟によるニホンジカの行動圏への影響の一つを示唆するものであると考える。

おわりに

これまでに寄せられた情報から、これまで分布がなかった地域で生息が確認された。また、季節により目撃数に地域差があることが示唆された。

今後も目撃調査を継続し、ニホンジカの動向については新しい情報を常に収集し、狩猟の影響も含めた季節的な移動についてはラジオテレメトリー法等による調査を行う必要があると考える。地域的な目撃の多寡についても、餌植物等の他の地理情報を重ね合わせて考察していきたい。

謝辞

この調査は、関係各位のご協力で行うことができた。業務の中で本調査にご協力くださった東京神奈川県森林管理署、神奈川県森林保全巡視指導員、神奈川県鳥獣保護員、神奈川県自然環境保全指導員、神奈川県自然公園指導員、県立施設職員、神奈川県機関職員の皆様に改めて厚くお礼申し上げる。

引用文献

古林賢恒・山根正伸・羽山伸一・羽太博樹・岩岡理樹・白石利郎・皆川康雄・佐々木美弥子・永田幸志・三谷奈保・ヤコブ・ボルコフスキー・牧野佐絵子・藤上史子・牛沢理(1997) 大型哺乳類とその保護

I ニホンジカの生態と保全生物学的研究 319-421 丹沢大山自然環境総合調査報告書 (財)神奈川県公園協会・丹沢大山自然環境総合調査団編 635pp 神奈川県環境部 横浜
 丹沢大山自然環境総合調査団(1997) 調査のまとめと自然環境保全のための提言 1-11丹沢大山自然環境総合調査報告書 (財)神奈川県公園協会・丹沢大山自然環境総合調査団編 635pp 神奈川県環境部 横浜
 神奈川県(2000) 神奈川県ニホンジカ保護管理指針～神奈川県ニホンジカ保護管理計画の策定に向けて～ 40pp 神奈川
 神奈川県(2001) 鳥獣保護区等位置図平成13年11月 2pp 神奈川